

別記様式(第5条関係)

議 事 録

会 議 の 名 称	平成29年度第1回福津市総合教育会議	
開 催 日 時	平成29年7月25日(火)	午前10時00分から 午前11時40分まで
開 催 場 所	福津市役所 別館1階大ホール	
委 員 名	(1) 出席委員 原崎市長、柴田教育長、下山委員、笠置委員、 藤井委員、青木委員 (2) 欠席委員 なし	
所 管 課 職 員 職 氏 名	川崎広報秘書課長、溝辺教育部長、大賀総務部長、高橋健康福祉部長、堤田地域振興課長、横山福祉課長、神山こども課長、池田教育総務課長、増田学校教育課長、安武郷育推進課長、吉住参事兼主任指導主事、森指導主事兼教育指導係長、長友総務企画係長	
会 議 (内 容)	議 題	・福津市教育大綱の策定に向けて(意見交換)
	公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
	非公開の理由	
	傍聴者の数	2名
	資料の名称	
会 議 録 の 作 成 方 針	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録	
	<input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録	
	<input type="checkbox"/> 要点記録	
会 議 録 署 名 委 員		
そ の 他 の 必 要 事 項		

1 開会の宣言

川崎：ただ今から、平成29年度第1回福津市総合教育会議を開会いたします。私は本日の司会進行を務めます広報秘書課の川崎と申します。よろしくお願いいたします。

本日の会議はお手元に配布している会議次第に沿って進めてまいります。なお、会議出席メンバーについては、座席表を載せておりますので、紹介は省きます。

2 挨拶

川崎：まずはじめに、原崎市長から挨拶をお願いします。

市長：私にとって初めての総合教育会議を本日開催いたします。御多忙の中、教育委員の皆様、そして関係職員の皆様ありがとうございます。

先ごろの法律の改正により、首長も教育施策に積極的に参画して、教育委員会とともに自治体の教育行政を考えていくという趣旨で開催されることになったのがこの総合教育会議であると認識しております。

今日は私にとって最初の総合教育会議であります。先月6月5日の6月議会では、この教育分野についても、所信表明の中で、私が思う教育施策、また、対話といった言葉もキーワードに全面に出して施策を打ち出したいと述べました。私が思う福津市の教育行政の中の、主にソフト面での課題や展望、ビジョンなどを伝えていきたいと思っております。それに、呼応して、教育委員の皆様からの意見や質問を承りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

川崎：それでは、協議に移りたいと思います。本来であればこの総合教育会議での協議事項については、市長が進行を進めるというところですが、皆様御承知のとおり、原崎市長、そして柴田教育長が就任されて今回が初めての会議となります。したがって、本日は、先ほど市長も申しておりましたが、「福津市教育大綱の策定に向けて」ということをテーマに、市長が思い描く福津市のこれからの教育像について語っていただき、それに対して、教育長、教育委員の皆さんと意見交換をしていただきたいと思います。進行については、私が務めさせていただきます。なお、会議の時間については、市長から教育に対する思いを語っていただく時間を30分間程度、その後、意見交換を50分間程度の合わせて1時間半を目途に予定しております。よろしくお願いいたします。

3 協議 福津市教育大綱の策定に向けて（意見交換）

川崎：それでは、市長が思い描く福津市のこれからの教育像について

語っていただきたいと思います。

市長：先ほどもこの会議の前に、世界遺産等の会議を行ってありました。世界遺産に登録された新原・奴山古墳群のことも含めて、これが教育にどう生かされるかということも述べたいと思います。

今日は、キーワードの一つとして、『対話』を挙げたいと思います。対話の手法をどのように教育施策に生かすのか考えていきたいと思います。

それから、『国際交流』そして『生涯学習』もキーワードとして挙げたいと思います。この教育大綱、自治体にもよりますが、福津市は、青年期だけでなく大学生、つまり大人も対象にした教育大綱をつくりたいので、生涯学習も考えていきたいと思います。

それでは、『対話』から始めたいと思います。

今日の朝日新聞の朝刊にこういった記事が載りました。「ふくつ未来会議設置へ。市長が表明。総合計画に市民の声」。これは昨日の定例記者発表で私が述べたものです。その対話について、何をもって対話とするのか。これまでも対話の手法が取り入れられてきたとは思いますが、改めて、この教育総合計画の策定までに、対話の手法が取り入れられないかということを考えます。

総合計画の策定について言うと、従来のやり方だと既にいろんな材料が集まったものを、審議会を通じて策定している段取りになっていたはずなのですが、審議会の招集は来年1月に先伸ばしして、今年8月からと10月からの2段階に分けて、市民参画型の二つの会議（合わせてふくつ未来会議と呼ぶ）を招集します。

8月からの会議は、無作為抽出による約1,000人に対して参加者を募集して、30～50人の委員を募っております。10月からの会議は、地元の高校生等や郷づくり協議会関係にも入っていただき、100人規模の市民会議を招集し、総合計画の基本構想を話し合ってもらうことを予定しております。それを踏まえて、学識経験者等も含めて公正・中立な視点で審議会を設置して、総合計画を策定していくことにしました。

この教育総合計画についても、教育懇話会等の答申や意見を取り入れながら策定していくことになると思うのですが、どこかの段階で、市民参画の場面を設けていただけたらと思います。このような計画を策定する際は、市民参画であろうがなかろうが大変なエネルギーと熟議をもってつくられると思うのですが、計画がつくられた後の進行管理もまた大切になってきます。つまり、プロセスを踏む段階でも市民の方に入っていただき、そしてつくられた後の進行管理もしっかり行っていくために、市民の方に評価していただくような指標を設定していただいて、市民の方と一緒に、この福津市が目指すべき教育の方向に進んでいるのかということの評価していただきたいと思っています。以上が、対話を用

いた福津市の政策形成、教育総合計画の策定、進行管理です。

所信表明において教育の分野では、特に対話ということは入れておりませんでした。教育の分野では、3つ目の柱「子どもたちへの福津の推進」の中で、『教育環境を整備します』『待機児童を解消し、子育てしやすいまちを目指します』『地域ぐるみで福津の子どもを育てます』ということを示しております。ここでは対話ということを書いておりませんが、根本になってくるのは、「対話」を重視した市民参画による福津まちづくり基本方針でありますので、教育施策にも対話を取り入れていただきたいというのが私の思いであります。また、教育大綱の中にも対話という言葉も入れていきたいし、教育施策において対話をどう取り入れるかを、今後議論していきたいと思っております。

次に、『国際交流』についてです。教育分野の中でも、いろいろな最重要施策が含まれます。世界遺産登録も無事に決まりました。そして、全国のあらゆる自治体で、他の地域や国との交流が行われています。福津市においては、長野県松本市との交流を行っております。また、勝浦小と八女市の姫治小との交流も行っております。他にも、民間交流で韓国の慶州との国際交流も行われております。

特に、外国や他の地域の方たちに対して、子どもたちから福津の良さを発信してもらったり、また、外国から福津市に来ていただいて福津の良さを知ってもらおうというようなことができないかと思っております。これは、ただ外国に行って何か学んでくるというものではありません。子どもたちなので、行けばたくさんものを吸収するでしょうし、また、来てもらえば交流の中でたくさんものを学べるかもしれませんが、改めて、世界遺産に登録されたことをきっかけに、この福津市の良さを、新原・奴山古墳群を含める「神宿る島」宗像沖ノ島と関連遺産群の良さを、アジアやヨーロッパの子どもたちに発信していただけるような教育施策が取れないかなと思っております。例えば、松本市との交流と同じように、福津市が主催となって公募をして、外国の子どもたちと交流するというようなものです。

これからは国際感覚は本当に必要だと思います。国際感覚が必要というのは、単に英語だけを身につければいいというものではなく、あらゆる場面でステージに立ったり、発表したり、プレゼンテーションをしたりするのです。そういう発表の場なり、主体的なプレゼンスの場を子どもたちに与えると、その都度、子どもの成長が見られると思っております。福津市内のすべての子どもたちが外国に行くことは難しくても、そういうことをやることも必要ではないかと思っております。

宗像市では、グローバルアリーナに招き入れたり、ブルガリアとの交流があったり、ラグビーを通しての交流もありますが、先般、福岡県から福津市に対して、オリンピックのキャンプ誘致の

打診がありました。これを機に、参加国もしくはその競技を通して、スポーツ交流なども考えられるかもしれません。何かこれまで以上に、子どもたちに他の国の文化に触れさせてあげたいとか、他の国の人と接するからには、自分たちの住んでいるまちの良さをしっかり勉強してもらって、それを発信してもらいたいという思いがあります。

最後に、『生涯学習』についてです。合併して13年目に入りました。津屋崎町にも生涯学習のすばらしい歴史とその伝統を守ってきた歴史があると思いますが、福間町には郷育という社会教育施策があり、この郷育という言葉が生み出されて以来、今も社会教育部門は郷育推進課という名称です。この郷育推進課が昨年から、今まで地域振興部にあったものが、教育部局に入りました。つまり、その大人も含めた生涯学習分野が教育部局に入ることにより、子どもから大人までの教育施策ということで、福津市においては教育総合計画にも、対象として取り入れていこうということで進められていると聞いております。

その生涯学習については、私はこれまでの郷育カレッジ等も含めたいろいろな取組も評価しつつ、私から改めて申し上げたいのは、環境・自然の保全の要素を生涯学習に取り入れられないかということです。福津市には、教育以外にもいろんな分野別計画がありますが、福津市は約3年間かけて、九州工業大学大学院の伊東啓太郎教授と学生も入って、第2次福津市環境基本計画をつくりました。

福津市はこのたび、東洋経済新報社の評価で九州1位の住みよさランキングの評価をいただきました。全国でも37位。全国的に高齢化が進む中で、特に子育て世代がどんどん増えています。その要因の一つは、私は福津の住みやすさ、環境の良さだと思っています。ほぼ22キロの海岸線。この連休中も白石浜海水浴場は超満員で、駐車できないほどにぎわっていました。もちろん宮地浜も福間浜も津屋崎浜も同じです。さらに、海だけに限らず、山、川と素晴らしい自然環境が残っています。しかし、少し油断すると、カブトガニが見られなくなったり、ウミガメが上がってこなくなったり、放っておくと、東福間でも大峰山でも竹がどんどん繁茂してしまいます。

そんな中、この福津の資産である自然をいかに守っていくかという問題を背景に、第2次福津市環境基本計画がいよいよ今年の4月から実行時期に入ったわけです。先日も地域振興部の職員や伊東教授、九工大の学生たちといっしょに、この基本計画をどのように進めていこうかという話し合いを先週行いました。まずは市民に関心をもってもらうこと、そしてこの先、いろいろな人に環境保全にかかわっていただきたいという意見が出ました。

すでに3つの郷づくり協議会ではこの10年間、環境部会等が松林の保全に取り組み、大変きれいになりました。また、今でも

里山みまもり隊とか、干潟みまもり隊とか、いろいろなボランティア団体や地域組織がありますが、せっかく完成したこの福津市環境基本計画を、教育施策でもしっかりリンクしていただき、これを生涯学習の一環としてつなげていけたらいいなと私は思います。具体的な手法は、これから話し合いが必要だと思いますが、いずれにしても、この環境基本計画が実際にあるということや、どのような内容かということは、市民の皆さんにはあまり知られていないと思うのです。これをひも解いていただき、何とか生涯学習につなげていただきたいと思います。私は思います。

福津市には歴史も伝統も文化もありますが、一方で、この素晴らしい環境を多くの市民の皆さんに教育施策を通じて知っていただき、できるだけ多くの方で共有し、実行していくことが、生涯学習の柱となるのではないかと考えています。

以上、対話、国際交流、生涯学習という3つのテーマで申し上げます。所信表明についても、質問等があればお受けいたします。

それと、あと少し、せっかくの機会なので申し上げます。

所信表明の中にもある、市立幼稚園の扱いについては、私なりの思いがあります。福津市の教育部局の職員の中には、福岡県が昨年11月につくった幼児教育アドバイザー制度の資格を持った職員が2人おります。保育園の待機児童が多い中で、幼稚園ももちろん需要はたくさんあり、多くのお子さんが今、古賀市や宗像市の幼稚園に通っています。平成23～24年に招集された市立幼稚園の審議会において、2園を1園に統合するということが答申されました。そして1園に統合された後は、3年保育の可能性を探るということも実は答申されています。神興幼稚園は先週、毎日新聞に大きく掲載されました。九州全体から公立幼稚園の先生が福岡教育大学に集まって、福岡教育大学附属幼稚園と神興幼稚園による研究発表があったのです。公立幼稚園教育の見直しというか、幼稚園と小・中学校とをつなげる教育をどうしていくか、また、どのようにして、さらに魅力ある幼稚園にしていくかということも今後時間があれば話していただきたいと思います。

それと、全国豊かな海づくり大会が宗像市で行われますが、ここには水産高校も相当かかわっております。

また、全国門前町サミットin福津というのが10月13～14日に行われます。門前町サミットというのは、市が主催して、全国から門前町を持つ自治体の首長を招き、門前町を生かしたまちづくりについて意見交換をしていくものです。昔大変にぎわっていた門前町の歴史を再発見というか、発掘することによって、門前町が元気を取り戻すきっかけになればということも言われていますし、私もそのように思います。

その他、ICT教育に対する業者からの問い合わせや提案が、私のところにも来ます。これについては、教育力の向上や、現場

の先生の負担軽減のためにも大変重要な視点だとは思いますが、今日は、ハード整備よりもソフト面での意見交換ということで、私の思い描く福津市の教育像については、以上で終わります。

川崎：市長の考える教育像についてに話していただきました。3つのキーワードが出てきました。まず、『対話』ということで、教育大綱や教育総合計画について、つくる前もつくった後も市民に参画していただきたいということでした。

それと2つ目の『国際交流』ですが、世界遺産登録が決定したことにより、いろいろな国との交流が深められる機会が増えるのではないかとことです。古墳群を海外の子どもに発信してもらいたいし、そのためには自分の住んでいる地域をもっと勉強してほしいということでした。

最後に『生涯学習』ということで、自然環境という言葉が出てきましたが、福津市のもつ豊かな自然環境を守るために、生涯学習分野を活用できないかという、以上3点についての説明がありました。その他にもいろいろあると思いますが、ただいまの市長の思いについて、委員の皆さんから意見や感想、質問等があればお願いします。

下山委員：1点目の対話については、よく理解できました。市民参画を中心として、プロセスを大事にし、なおかつしっかり評価をする。そして改善をして次につなげるということで、その中で、8月、10月に総合計画策定に関する市民会議をするという具体的な説明がありました。つまり、いろいろなところで、市民との対話を行っていくものだと思っています。

ただ、いろいろな意見が出てくるとはと思いますが、どれを取捨選択して、教育大綱に組み入れていくのかというのは、大変なことだと思います。逆に、発信した市民の側からすると、自身が発言したものはいずれ実行されるものだと思いがちになるのではないかと危惧しています。

いろいろな意見を聞きながら具現化して、その後、実際にどの部局が担当するのか、というような具体的なものが出てきたらいいなと思っています。

やはり、夢を持つという大切なことです。年をとっても夢は持ち続けるべきです。夢はその都度、具現化する中で一つずつ消えていきますが、生きていく中で新しい芽がまた出てきます。私自身、年をとっても何かしら夢を持ちながら楽しい人生を送っていきたいという思いを持って毎日生活していますが、このように楽しく語れる年配者も育てていきたいなと思っているので、年配者が学習する場、または、若い子どもと年をとった人とが交流する場もどこかでセッティングしていただきたいと思っています。

先ほど、子どもたちがステージ発表するプレゼンの場という言葉がありました。これは非常に大切なことだと私は思います。子どもものときに人前で発表する経験が、5年後、10年後の自身

の大きな生きる力につながっていくはずだと思っています。福津市ではコミュニティ・スクールフォーラムが8月に行われています。昨年は、東京オリンピックを目前にした子どもたちが、どんなかかわり方をするかというテーマで作文を発表したんです。子どもたちにテーマを与えることによって、いろんな夢を抱いてくれるだろうし、さらに発表する場があれば自信がつくだろうし、そしてそれを聞いた子どもたちが、次は自分がそういう発表をしたいと思ってくれる。そういう連鎖が発生するような場が、もっとあってもいいなと思いました。それは、小・中学生だけではなく、高校生や大学生そして大人たちも含めてあってもいいものと感じています。

それから、生涯学習について、自然環境という言葉が出ました。福津のような素晴らしい自然環境は、他にはないと思います。よく比較されるのが糸島です。確かに似たような自然環境なのですが、福津はコマーシャル性というか、情報発信力が糸島よりも弱いような気がしています。環境面を考えたときに、せっかく環境基本計画があるのだから、それをいかにして伝えていくかが大事です。地域を通してもいいし、学校を通してもいいし、そういった場をこれからどんどんセッティングしていただけるとありがたいと思います。

市長：市民参画型の総合計画の策定を、策定スケジュールまでつくり変えて行っているところです。分野別計画もいろいろある中で、教育分野では教育総合計画が、福津市総合計画の分野別計画の一つであります。この教育総合計画の工程プランは平成31年4月スタートということで予定されています。その教育総合計画の策定過程においても、市民参画に関するものを入れていただきたいという思いがあります。ですから、福間中学校などで行われているワールドカフェなどのような、対話を取り入れた施策は非常に有意義だと思いますが、今後は、教育総合計画がつくられた後のその検証においても、市民が検証しやすい指標を入れてもらうなどの工夫も入れていただきたいと思っています。

環境については、この福津市環境基本計画を委員の皆様もぜひご覧いただきたいと思います。これは自然分野だけではありません。循環可能な、再生可能なまちづくりをめざしているともいえます。

先日、郷育推進課、うみがめ課、地域振興課の3課合同で福津の夏学校という事業を開催しました。合計39人の親子が参加して、環境のことや生き物のこと、エコのことを親子そろって勉強してもらおうという事業を実施して、大盛況でした。もっとこういう行事に市民の人に参加してもらいたいと思いますし、教育施策とリンクできないかなと思った次第です。

次に、国際交流についてです。現在、韓国慶州との交流が広報秘書課主管で行われております。松本市との交流は教育委員会主

管で行われていますが、教育分野でも国際交流をもっと生かしていきたいというのが私の思いなのですが、これは今後、教育長や教育委員会事務局の皆さんと話し合っ、て、どういう体制や施策が取れるかということをお話し合っ、ていきたいと思っ、ています。

笠置委員：対話についてですが、市長に就任されてから今日まで、市民の皆さんと対話をなさってきて、私が市民の皆さんから聞いた感想や感じたことなどを話します。

市長と語ろう会に参加して、話を聞くことができ、よかつたという人と、もつと話したかつたという人もいらつ、しゃいました。

その中で、子どもたちのために一生懸命頑張っ、ているみまもり隊の皆さんは、年間200日ほど活動しています。彼らがだんだんと高齢化になってきており、後継者がいなくなりつつあるのが心配だという声がありますので、市長にも対策を考へていただきたいという意見がありました。

そして、公立幼稚園の存続に関して、市が合併したりすると公立幼稚園・保育園がどんどんなくなっ、ていく動きが全国的に見られます。子どもたちの数が少なくなっ、てくると、市外の園バスを見かけることが多くなっ、ていきます。そういうのを見ると、公立幼稚園・保育園を市長が残してくださるといっ、う判断はすごくありがたいとおっ、しゃっていました。今後、福津市では、大和保育所と神興幼稚園が私立保育園・幼稚園のお手本になっ、てほしいという意見も聞きました。

これから先も、対話を通して、市民も自身の意見を一方的に話すばかりでなく、周りの方の話にも耳を傾ける必要があるでしょうし、これから熟議がどん、どん、広がっ、ていくといいなと思っ、ています。

次に国際交流ですが、以前うちの子を、とある留学生がたっ、くさん暮らしているところに連れて行っ、たことがあります。福岡県には留学生がたっ、くさんいますので、そういう方を福津市に招いて、福津市の学校行事などに参加してもらっ、たりすると、コミュニティ・スクールの一環として交流ができるのではないかと思っ、ました。福津市の小中学校の中には海外からの転入生もいるので、その子たちもリーダーとして輝ける場所ができるのではないかと思っ、ています。

そして、生涯学習についてです。ふくつ花火大会の後に3校の中学生がごみ拾いボランティアをしています、海辺をきれいにする次の段階で、水産高校と交流をすると、自分たちがきれいにすることと、生き物の生態系に関連する学習ができるのではないかなと思っ、ています。

以上です。

市長：まず、みまもり隊の後継者を心配されているという点。本当にいつも頭が下がる思っ、いです。郷づくりは、5月18日から6月24日までの約1か月間をかけた、宮司、津屋崎、神興、福間、神興東の5か所の郷づくり協議会、懇談会や意見交換会を行っ、まし

た。そこでは、それぞれの地域ならではの質問も受けましたが、郷づくり協議会を担う後継者がいないという意見はどこからも挙がっていません。いったん部会長を任されると、後継者が見つかるまでずっと役員を続けていかなければならないという現状もあるようです。郷づくり協議会の制度や運営自体の周知方法については、郷づくり制度の根拠条例である「みんなですすめるまちづくり基本条例」を見直したり、市の総合計画の分野別計画の一つである「郷づくり基本構想」において郷づくり制度の設計なり、権限の付託なりを今よりも進めていくと同時に、このみまもり隊の後継者も育てていかななくてはならないと思っています。

国際交流について。これは皆さんからいろんな意見をいただきたいと思っています。笠置委員がおっしゃったように、留学生を通して、子どもたちや大人たちの交流につなげていくのは一つの手だてになり得ると思いました。

藤井委員：私も感想なのですが、私には今、中学生と高校生の子供がいます。福津市はとても子育てしやすく、住みやすいと思います。そこで保護者の立場から感想を述べたいと思います。

市長が掲げている開かれた市政に関連して、学校も開かれた学校、透明性の高い学校であるべきだと思っています。現在、コミュニティ・スクールを行っていますが、そのコミュニティ・スクールによって、みんなが学校を知り、またその学校を知ることによって保護者同士がつながっているという状況が今できており、保護者同士も情報を共有することによって安心感が出て、すごくいいものになってきていると思います。保護者が行う家庭教育の一つに「早寝早起き朝ごはん」という運動がありますが、これも学校に行かないと知らない人もいるので、そこは学校関係者だけでなく、また保護者だけではなく、全市民にそれを伝えていただいているので、地域ぐるみで子どもたちを育てていくんだという姿勢が福津市全体に浸透しつつあるところが、すごくありがたいと思っています。

郷育カレッジについても、福津市の自然を学校に伝えていったり、また、学校自体が取り組んでいることを、学校同士でつながりあっていただきたいなというふうに思っています。

それと、人口が増えて、小さなお子さんがすごく増えている中、自家用車での来校も制限されていますので、コミュニティバス等をもう少し充実させて、安心・安全な環境で学校行事に参加できたらいいなというふうに思いました。以上です。

市長：福津市は、特にコミュニティ・スクールの先進地として、本当にたくさん自治体や議会が視察に来られ、本当に高い評価を受けております。中学生のボランティア参加もその地域との交流の一環だと思いますが、福津市は近隣市と比べると、子ども会育成会等も含めた、地域ぐるみでこの教育を見ていきたいと思いますということで、育成会連合会も組織としては、加入者数が若干減ったり、活動が少し形

骸化してるとかという批判の声も聞こえてはきますが、しっかりと残っています。コミュニティ・スクールが前面に出てきますが、これをもともと下支えしてきたのが、この子ども会育成会や婦人会、シニアクラブといった社会教育関係団体などであり、これらの制度の強化は必要かなと感じています。また、各小学校エリアにいろいろと守るべき環境を設定されています。特に、日蒔野地区がある福間南小学校校区は戸建て住宅やマンションが軒並み建設されていますが、合併前から先駆的に、グリーンインフラという言葉もあるように、自然環境を残すことでそのことが評価されて、上西郷川が全国の土木学会の大賞をいただいたことが、2か月ぐらい前の新聞にも掲載されたようです。これは都市管理課主管で取り組んできた事業ですが、環境部門であるうみがめ課主管の福津市環境基本計画に関する会議でも、グリーンインフラのことが取り上げられていました。守るべき自然や守るべき環境が身近なところにあり、それが子どもたちのふるさとへの愛着にもなるし、それを守っていくこと、保全していくことで、また、教育面でもいい効果を与えると僕は思っています。

世界遺産登録により、土日に限定して、ラッピングされたシャトルバスを運行しています。これはPR不足もあり、また、暑い夏真っ盛りの季節ということもあるのかもしれませんが、なかなか利用されていないようです。

コミュニティバスは、今後、大きく変わっていく可能性が十分にあります。これまでのコミュニティバスは、既存の交通体系を補完する福祉バスという位置づけで、地域交通体系協議会での審議のもと、交通機関が薄いところに運行していくという考えでしたが、さらに観光分野にも取り組んでいいということになってきております。現在、日曜日にコミュニティバスが走っていないのは、日曜日の通勤通学利用者が非常に少ないからという理由です。しかし、観光分野も視野に入れると、コミュニティバスは日曜日でも運行していいということになってくるはずです。また、平成23年度に運行を始めて以来、これまでにルートの変更を2回行いました。たしかに、勝浦小学校にはコミュニティバスを利用して通っている児童もいますが、津屋崎小学校でも保護者の方が学校付近まで送っている光景を見かけます。それなら、津屋崎小に限らず、コミュニティバスを通学にも使いやすい方向に変えていけるように、地域交通体系協議会のメンバーに観光分野や教育分野の方に入っていただきながら、教育分野について提言していただくことを期待いたします。以上です。

青木委員：先ほど藤井委員が、日蒔野地区は若い子どもたちやお母さんたちがたくさんおられると言われてましたが、一方、勝浦には全くそういった姿はなく、今後どうなっていくのだろうかと思像できません。そこで、新市長に今後、取り組んでいただきたいことがあります。

今日お話いただいた3つの柱については、下山委員と笠置委員から話がありましたが、コミュニティ・スクールのことについて、少しお話いたします。

このコミュニティ・スクールの基本理念として、「行きたい学校、帰りたい家庭、住みたい地域」という言葉があります。行きたい学校というのは、子どもたちはもちろん、先生方も行きたい学校、そして、帰りたい家庭っていうのは、心の教育がなされている家庭、住みたい地域というのは、自然環境あるいはいろんな利便性とも言えます。昨年、宗像署の方たちと意見交換をする機会があったのですが、そこで宗像署管内が一番犯罪が少ないということをおっしゃっていました。やはり、こういう街で、子育てをしたいとか、将来住みたいということで、人口が増えているということの要因の一つではなからうかと思えます。

まず「行きたい学校」について、人口増加に伴い、校舎等の増築にもものすごく教育予算がかかっているということも承知していますが、先生たちも多忙を極めており、もしよければ夜の職員室を訪ねていただいて、先生たちがどんな顔つきで無給での残業をしているかというのを市長に見ていただきたいと思っています。

私には市内で教諭をしている友人がたくさんいますが、宗像市に転勤したいとか、そんな声が聞こえてくることがあります。そんなことを言わないでほしいなと思うのですが。病休で学校を休んでいる先生方もたくさんおられます。また、どの学校を見ましても講師の先生の数が多い。あるいは今年度も講師の先生が見つからずに、右往左往されていた校長先生の姿もありました。病休の先生がどんどん出てくる原因は何なのか把握していくことが大事なことじゃないかなと思います。部活動の成績にしても、宗像市と比べるとあまり成績が良くないとも言われています。それは先生方のやる気の問題というか、ほかのことで時間を割かれて、部活動で指導する時間がなかったりとか、そういうことも少しずつ影響してきているような気がします。

それから、保護者から聞いたところでは、部活動の助成金も少ないために、ユニフォーム代や遠征費用などの自己負担が多額になってきているという意見も聞いております。その対策もこのコミュニティ・スクールを充実させていく一つの方策になるのではないかと思います。

次に「帰りたい家庭」についてですが、物やお金は与えられるが、心はどこに与えられたんだというような悲痛な叫びが、犯罪の増加につながっているのではないかなと思うことがあります。家が本当に帰りたい場所になっているのかということに疑問符がつく子どもが少なからずいるような気がします。

それと、フクスタやエンゼルスポットや市立図書館を利用して勉強をしている子どもたちの姿を見かけます。私たちの時代と比べて、勉強する子どもたちが多いなと思いますが、そういった施

設の充実も、家に帰る場所がない子どもたちの居場所になってくる気がしますので、その面の充実をお願いしたいと思います。

学校で、カウンセラーや臨床心理士による講演会というのを、この帰りたい家庭にするために、ぜひ開いていただきたいなと思いました。

「住みたい地域」というのは、心が豊かになれば、犯罪ももっと少なくなってくると思いますので、九州1位という評価を得られた理由付けを分析して、それをPRしていけば、福津市に住み続けたいと思ってくれる子どもたちを育てていけるのではないかと思います。

市長：福津市が九州1位になったのは住みよさランキングですね。住みよさランキングでは、いろんな指標によって評価されたランキングですので、これはこれで、ありがたく承る必要はあると思います。ですが、青木委員が言われたように、どの点が評価され、本当に現実的にその保全とか維持のために、どういう施策を教育行政や市が行っているかということは、分析調査が必要だと思います。

「行きたい学校、帰りたい家庭、住みたい地域」に関連して、藤井委員の意見にもありましたが、郷育推進会議でもよく審議されているとおり、家庭教育の支援については関心があります。政治や行政の分野で、一人ひとりのところまで目を配る政策というのは、なかなか難しい面もあると思います。それでも、やはり教育の分野においては、特に福津市については安部清美先生の言葉もあるように、一人ひとりに目を配っていく、そういう寄り添っていく教育を行っていくんだということを掲げる重要性は感じておりますし、それを掲げるからには、具体的な施策としてどう見ていくかということが重要だと本当に思います。そのことについての意見交換も今後できればいいなと思います。

最近では、東福間エリアに一つ家庭教育支援の事業が立ち上がりました。行政からのアドバイスもあったようですが、ある方が東福間エリアで、学童保育とは違う、いわゆる寺子屋形式みたいな施設を民間レベルで立ち上げましたので、その情報も個人的には汲み取っていきたいと思っています。

それと講演会の話がありましたが、福津市では、食育の講演会、人権講演会、環境フォーラム等々、いろいろ講演会が行われております。今後は、教育委員会主催の講演会も行ってほしいと思っています。一例として大阪府大東市では8月に、大東市教育委員会が主催する講演会が開催されます。カメラアステージも完成しましたし、ホールや大会議室等を使って、フォーラムを教育委員会主催で行っていただくことには大賛成です。以上です。

川崎：4人の教育委員さんからのお話をお聞きしたわけですが、最後に全体的な意見ということで、柴田教育長にお話していただきたいと思っています。

柴田教育長：4人の教育委員の皆さん、市長も本当にありがとうございます。私も初めて出席して、大変有意義な会議だと思っています。特に、市長のビジョン、キーワードを聞くことができたというのは、私にとっての収穫でした。もちろん、教育委員の4人の意見もビジョンがしっかりとありますが、地教行法の改正で、平成27年から、各市町村には総合教育会議を設置しなさい、教育大綱をつくりなさいということで、新市長のもとで、新しい教育大綱をつくる上で重要な会議だったと思っています。私もかねがね、新しいものをつくり出したり、教育活動を行う上で、「VW」という言葉をよく使ってきました。トップが『ビジョン（V）』を示して、それ以外は『ワークハード（W）』するというので、そうすると新しいものができるということです。

私は、教育はやはり未来志向、つまり10～20年後の福津市の教育を見据えた教育大綱をつくりたいと思っています。未来は、グローバル化や少子化、高齢化、ICT化、AI化などに対応できるような教育を実践できればと思っています。少子化と言っても家庭内が少子化になっていて、福津市は子どもたちが増えていて、今は未就学児や小学生、中学生の増加に伴う教育環境整備のことで頭の中がいっぱいなのですが。

今日、市長に3つのキーワードを言っていたいただきました。「対話」というのは、いかに人とかかわるかということで、コミュニティ・スクールの発展。「国際交流」は、グローバル化に対応していくこと。それから「生涯学習」は、少子高齢化の中で、将来にわたって学び続けることができる環境づくり、あるいは学び続ける人づくりというふうにとらえております。

福津市は夢や希望をもち、健やかに育つ子どもを育成すると掲げておりますが、子どもだけの育成じゃなく大人も学べる環境づくりをこの総合教育会議で策定していかなければいけないと思っています。市長の3つのキーワードを総合して、フレーズを考えてみたのですが、「未来に向けて（未来に向け）、人とのかかわりを大切に、国際社会に積極的に貢献でき（国際社会をたくましく生き抜き）、生涯にわたり学び続けることができるまちづくり（生涯にわたり学び続ける人づくり）」というのが、市長の目指す教育の方向性かなというふうに感じたところです。人とのかかわりの中で、未来会議やコミュニティ・スクールの具体的な活動も見えてくるのかなと思っていますし、国際交流においては、世界遺産を生かすとか、あるいは来る東京オリンピックのキャンプ地誘致を目指して人とかかわりを深めるとか、あるいは、生涯学習において、本市では郷育カレッジをやっておりますが、新しくできた図書館をどう活用するかとか、あるいは、大学と連携をしながら環境問題にどう取り組むかとかいうことも検討していく必要があるのかなと感じました。それは子どもであっても大人であっても同じだと思います。門前町サミットとか、山笠などの地

域の行事にかかわりながら、大人も子どもも学ぶ生涯学習社会づくりをつくるのも我々の役割かなと思っているところです。

いずれにしても、教育条件の整備のためには予算をつけていただいて、我々も知恵を絞って効果を予測した教育施策をやっているかなければいけないと、今日感じたところです。この会議では市長にしても、我々教育委員会、教育委員にしても、目指すところは同じであるということです。本市の子どもたちが健やかに育ち、あるいは市民に教育の機会に出会えるチャンスをつくるのも我々の役割だと思っておりますので、今後ともこの会議を、熟議を重ね合い、福津市発日本の教育というスタンスでやり続けたいと思っています。

市長：ありがとうございました。

川崎：それでは、予定の時間が来ておりますので、協議はこれで終わらせていただきます。本日は、福津市教育大綱の策定に向けてということで、市長の思い描く福津市のこれからの教育像についてお話していただき、そこから教育委員会の皆さんと意見交換を行ってまいりました。本日出された意見を踏まえまして、次回の総合教育会議で教育大綱の素案を提示できればと思っておりますので、よろしくお願いします。

ここで、皆さんに確認をしたいことがあります。平成27年度からこれまで、新しい教育大綱の策定に向けて取り組んできた中で、キーワードが3点ほどありました。一つは、教育大綱は全市民を対象に、学び続ける教育を行うことだということ。それと、循環型の人材育成ビジョンを形成しなければならないということ。そして最後に、グローバルな人材を育成するためには地域ぐるみで育てていかなければならないと、この3本の柱が非常に大切なのではないかと思っております。大綱づくりにあたり、この3本柱を基本において、素案をつくりたいと思っておりますが、それでよろしいでしょうか。問題がないようでしたら、次回の総合教育会議でその形に沿った素案をつくって、提案させていただきます。

4 その他

川崎：その他として、事務局から何か連絡事項等ありますか。

事務局：ありません。

5 閉会の宣言

川崎：次回の総合教育会議は10月を予定しております。日程については、また後日調整させていただきますので、よろしく申し上げます。それでは、以上をもちまして、平成29年度第1回の総合教育会議を終了いたします。